

2/7 ルカの福音書 5 章 1-11 節「あなたは人間を捕るようになる」

小池 宏明 牧師

今回は、シモン・ペテロに何度も関わろうとされるイエス様の導きに注目する。

*シモンが段階的に導かれる

ヨハネの福音書では、本日の箇所(ゲネサレ湖での大漁の出来事)より以前に、シモンが兄弟のアンデレからイエス様のことを紹介され、主イエス様がシモンに声を掛けられる場面が記録されている。イエス様は、アンデレの兄弟が「シモン」であることを知っておられた。シモンは自分の事を知っているイエス様に関心を持って付いて行った。シモンはイエス様の素晴らしい御力(カナの婚礼における最初のしるし(ヨハネ 2 章)やシモンのしゅうとめの癒やし(ルカ 4 章))を目撃していた。しかし、今日はイエス様の語ることばを聞こうとイエス様を追いかけてきた人々を横目に、陸で網を洗っていたシモンの姿が気になる。シモンは、イエス様に期待してイエス様に付いて行く弟子グループの一人としてイエス様と行動をもとにしていたが、恐らく「付かず離れず」という関わりだったようだ。現に、シモンはイエス様のことを「先生」と呼んでおり、イエス様の救い主を表わす「主」とは呼んでいなかった。(5 節)

私たちも、主イエス様に出会って、最初から救い主、神の御子とは信じられなかったのではないだろうか。それでも主イエス様は何度も何度も関わって下さる憐れみ深いお方なのだ。

*人間を捕るようになるとは

主イエス様は、再びご自身の栄光を現わすために、シモンをはじめ漁師たちに、関わって下さった。こうしてシモンは、イエス様がどのようなお方なのか理解し、自分たちの限界を知り、「主よ、私から離れてください。・・・」(8 節)と自らの罪深さを自覚した。さらにイエス様からの約束に信頼して「すべてを捨ててイエスに従った」(11 節)のである。主イエス様の約束は 10 節のとおりである。

「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」この「人間を捕る」とは、人間をキリストのもとに連れて来て、キリストにあって「活かす」ことである。

主なる神様は、繰り返し繰り返し、私たちの救いのために、また私たちを弟子とするために私たちを招き、取り扱って下さる。一生懸命やってもうまくいかないと悶々とする私たちを、欠けだらけの私たちを招き、主の弟子にして下さるのだ。私たちも「すべてを捨てて」、言い換えれば「私の人生は私のものではない、主のもので」と告白して、主に聴き従い、主に委ねて生きていきたい。